

■ 定期総会特別講演 ■

『いのち』の大切さを子どもたちに
～看取り経験を通して～
いしが在宅ケアクリニック 石賀 丈士



在宅医療の最大の魅力は、長年住み慣れた家で、ひとりひとりの思いのままに療養生活を送ることができます。しかし、在宅医療という選択肢は、まだまだ普及が追い付かず、日本では限られた地域でしか受けることができません。在宅医療（在宅医）が普及しなければ、入院医療（病院）か通院医療（開業医）という選択肢しかありません。将来、どこに住んでいようと、希望すれば在宅医療という3つ目の選択をすることができる世の中になってほしいと切に願っています。

そのため、2009年7月、まずは四日市市に在宅医療専門のクリニックを開設しました。スタッフ5名での立ち上げでしたが、地域の皆様に支えられ、現在は30名以上となりました。また、当院を信頼していただき、訪問診療をさせていただいた方も2000名を超えるました。

いのちの教育 ～看取り経験を子どもたちに～

昭和初期には、家族中心に、自宅で看取ることがあたり前でした。しかし、現代の日本では、約8割の方が病院で亡くなり、自宅で最期を迎える方は、1割に過ぎません。

そのため、子どもたちが、臨死の場面から排除され、いのちの大切さや死の意味を考える機会もなくなってしまいました。

私たちは、在宅医として、ご自宅で最期まで患者さんに楽に楽しく過ごしていただくお手伝いをし、日々、多くの看取りの場に立ち会わせていただいている。その中で、子どもたちに、いのちの大切さを伝えていくことも、私たちの大切な使命であると考えています。

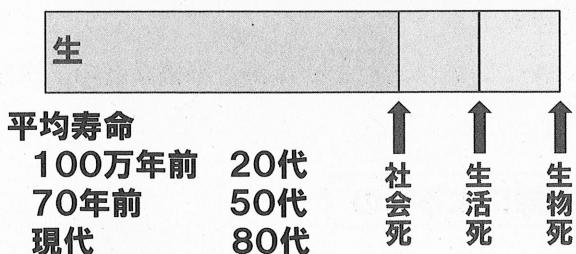


看取り経験のない家族の増加
1割しか家で死ねないおかしな国

- ◆看取り文化の衰退
- ◆子供が臨死の場面から排除される
- ◆揺れる（特に医師、坊さん、教師）

看取りを通して家庭教育が必要

人間には3つの「死」がある



どこからが死か個人個人判断が異なる